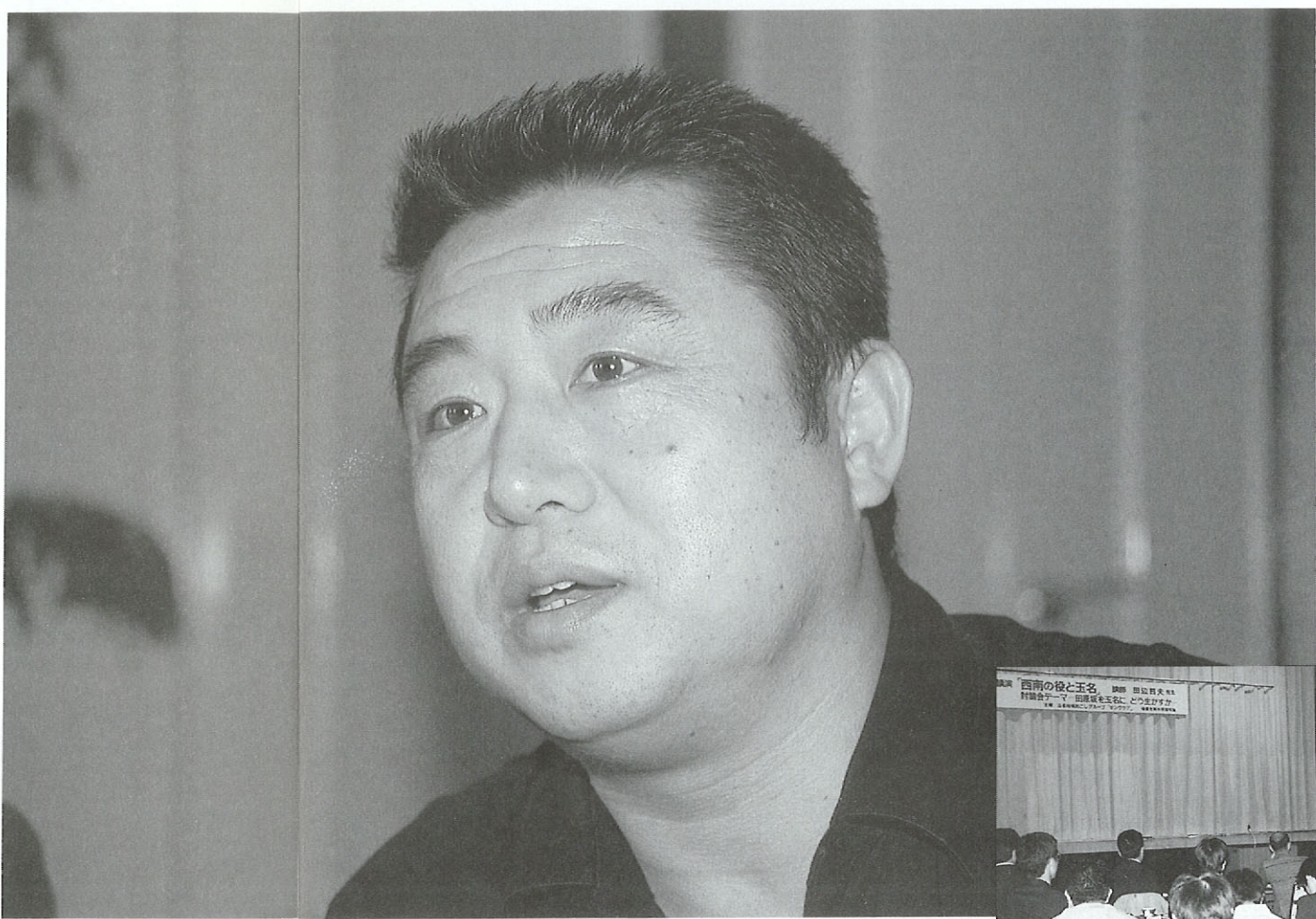


理想の街をめざして、サンクラブが打ち出した裏川の再開発構想。

地域の人の憩いの場へと変身。公園化が進んだ裏川付近。



「地域おこしはまず歴史を知ることから」を合言葉に開かれたシンポジウム

## 住んでいる人が盛り上げる本当の 地域おこしを目指して

阿蘇外輪山に端を発した菊池川が流れ込む玉名平野。古くから交通の要衝として栄えてきたこの地に、活気ある街づくりをめざす玉名地域おこしグループ「サンクラブ」があります。

今回は「サンクラブ」議長の立山良一さんに、昔ながらの自然と近代的な街並みとが調和する街の実現に向けての活動を伺いました。

していますが、ほとんど地元主導型の運営になっています。それが我々のねらいでもあるんです。地元の人たちがまず盛り上がりたらないと現実的には何も変わりませんね。そういう意味で裏川はやってきたことの成果が出てきたといえます。

### 郷土愛、これがすべての原動力

今後、どのような活動を考えていますか。

立山 玉名は危機感をもってないんです。でも、今のうちから将来を見据えた形での地域おこしを始めていかなければ、周囲から取り残されてしまう。だからまず、団結して街づくりができるよう、住んでいる人の意識を高める活動を続けていきます。実際に会合を開いてきた結果、かなり意識の変化はみられますよ。それでも計画が壮大なものだと「難し」と尻ごみされたり……。だから気長に取り組まないです。我々は、玉名は良くなる、という信念で活動を続けたい。それは、玉名で生まれ育った人たちの熱意と、郷土愛に支えられてこそできることだと思っています。今はまだ行政への働きかけとか、予算の問題とか、具体的な実現へ向けての時期だと思っております。大きな相撲取りにぶつかった時の感じかな。これからです。

サンクラブ発足のきっかけを聞かせて下さい。

立山 私は玉名出身ですが、子供の頃の玉名は城北地区の中心地でした。というのもこの地は、古くから菊池川を行き来する船の港があり、商業の町として賑わっていた所なんです。それが今の社会に充分対応しきれず旧態依然としている所もある。でも玉名はそういう歴史と恵まれた自然環境とを持っていて、だから、いい方向に変わる大きな可能性を秘めていると思います。だから、活動を始めたいのですが、私が携わってきた青年会議所と建築士会の青年部会は四十才まで。卒業してしまっただけで活動拠点がなくなりました。それじゃ続けてきた意味がないと、地域おこしの熱意を持っている人を集めて新しくグループを作りました。

立山 現在の活動状況を教えてください。地域の発展と自然保護。私たちはこの二つの視点を持っています。だからやみくもに開発するんじゃなく、開発の必要のある場所、まず地元の人達が活動を起こすよ

う、呼びかけています。例えば、高瀬裏川と高瀬商店街の再開発、玉名温泉の活性化、国道二〇八号線の渋滞の解消ですね。これらには打開策としての構想を打ち出してもいます。また、熊本県青年塾と共に市に陳情に行ったり、地域で「西南の役と玉名」のテーマのもとに交流会を開いたり、地道な活動を続けています。ただ、まだ具体的な最終構想まで話がいってないので、それがこれからの課題です。

「裏川を愛する会」が地元を中心に発足しましたね。

立山 裏川界隈はもともと舟つき場として一番栄えていた場所です。現在も江戸時代末期の石垣や石橋がそのまま残っています。しかし新しい街並みに押されて寂れ、その価値が分からなくなっていました。それが、県民文化祭のとき、県立劇場の鈴木健二館長が裏川を絶賛された。この話を聞いて地元の人々が再認識して、自発的に発足しました。この会には、要請されてサンクラブからも何人か入って活動